



令和2年4月15日	
資料提供	
担当課	県立博物館 学芸課
担当者	主任学芸員 前田正明
電話番号	073-436-8684

冊子『「災害の記憶」を未来に伝える』の配布について

和歌山県立博物館では、平成31年度文化芸術振興費補助金(地域と共働した博物館創造活動支援事業)を得て、文化遺産課、県立文書館、歴史資料保全ネット・わかやまと協力しながら、地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業に取り組んできました(別紙1)。

このたび、本事業の調査成果を多くの方々に知っていただくため、下記のとおり冊子を作成し、配布することになりました。

冊子『「災害の記憶」未来に伝える ー和歌山県の高校生の皆さんへー』(A4判、35,000部)は、県内の高校生全員に配布(無料)します。この冊子は、高校生の皆さんが、災害から自らの命を守り、地域の文化遺産の守り手となることを願って作成したもので、防災学習や地域学習などの際にご活用いただければと考えています。

和歌山県立博物館または和歌山県立文書館に来館された方で、希望される方にも配布(無料)します。また、冊子のPDF版は、和歌山県立博物館のホームページからダウンロードすることができます。

【添付資料】

別紙1(『地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業』の概要)
冊子『「災害の記憶」未来に伝える ー和歌山県の高校生の皆さんへー』

『地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産を発掘・共有・継承する事業』の概要

[これまでの取り組み]

和歌山県立博物館では、和歌山県立文書館、和歌山県教育庁文化遺産課、歴史資料保全ネット・わかやまの協力を得て、平成26年度から国庫補助金を活用し、那智勝浦町と御坊市(同26年度)、太地町と串本町とすさみ町(同27年度)、印南町と由良町(同28年度)、新宮市と北山村(同29年度)、日高町と白浜町(同30年)で、小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える』Ⅰ～Ⅴを刊行し、関係する自治体の協力を得て全戸配布するとともに、地域住民を対象にした現地学習会「歴史から学ぶ防災」を開催してきました。県立博物館のホームページでは、これまでの活動をご紹介しますとともに、発行してきた小冊子をダウンロードできるようにしています。

[本事業での取り組み]

これから起こりうる災害に対して、地域の人々が自らの生命と財産(文化財を含む)を守っていく活動を支援する活動として、「災害の記憶」調査と未指定文化財を中心とした文化遺産の所在確認調査を継続し、地域の人々に伝えて行くことが必要であると考えています。

平成27年12月に日本が主導して国連総会本会議で「世界津波の日」(11月2日)が採択され、翌年から「世界津波の高校生サミット」が開催されています。同28年は高知県、同29年は沖縄県、同30年は和歌山県で開催され、和歌山県においても高校生が日本の津波の歴史や防災・減災の取組を学ぼうとする機運が高まっている状況にあります。一方、和歌山県(特に県南部)において高齢化や過疎化が進行し、地域文化の継承の担い手として高校生の果たす役割が大きくなっています。

こうした点をふまえ、今年度は次の2つの取組をおこないます。

- ① これまで調査をおこなった2市11町村(御坊市・新宮市、由良町・日高町・美浜町・日高川町・印南町・白浜町・すさみ町・串本町・太地町・那智勝浦町・北山村)の津波浸水想定地域、洪水想定地域を対象にした「災害の記憶」・文化遺産の所在確認の調査で成果をあげてきましたが、時間的制約から、「災害の記憶」に関する資料や未指定文化財を中心とした文化遺産の調査が不十分であったため、今年度はその補充調査をおこないます。
- ② これまでの調査成果に今年度の補充調査の成果を加えた内容とする、高校生を対象とした冊子(A4判、16ページ、オールカラー、無料配布)を作成し、和歌山県内の高校に通う高校生に配布します。また、一般の方々へも可能な限りで配布し、ウェブ公開もします。

[調査参加者]

砂川佳子	和歌山県立文書館 文書専門員
藤隆宏	和歌山県立文書館 主査
浜田拓志	歴史資料保全ネット・わかやま 会員(奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 客員研究員)
前田正明	和歌山県立博物館 主任学芸員
松原瑞枝	和歌山県教育委員会文化遺産課 技師

*本事業は、平成31年度文化庁「地域と共働した博物館創造活動支援事業」で行う事業(全体事業名：地域と共働して文化遺産の活用を担う博物館連携事業)のうちの一つの事業です。